

No. 130

2010年6月15日発行

会 報

静岡県技術士協会・(社)日本技術士会 中部支部 静岡県技術士会

事務局連絡担当 山下 久吉 TEL 055-970-1255 / FAX 055-979-5029 E-mail hiyama@lilac.ocn.ne.jp

会長：久保嶋 勝巳 専務理事：山下 久吉 会計：大井 寿彦 会報担当：川瀬 泰裕・齋 強志

会計振込先：静岡銀行磐田支店 支店番号 321 普通 0980271 静岡県技術士協会(会計 大井寿彦 055-921-8053)

新会長 久保嶋 勝巳 挨拶



久保嶋勝巳 新会長

稚拙ながら私見を以って、就任のご挨拶とさせていただきます。

当協会も設立して約45年を経過しました。適切ではありませんが、人間に例えれば熟年として、最も充実した活動ができる年代でしょう。

振り返ってみると、設立時には会員も燃えて様々な面で活発であったと思います。時を経るに従い、何となく低迷しつつあるように感じます。

様々なお考えがあるのは当然で、会員の相互交流の場で良いとする者、一方でコンサルタント業として活動できる環境の整備・強化を求める者、または、技術的成果を何らかの形で商えることを目論む者、等が潜在するものと考えます。

その背景には、多岐に渡る専門部門に属する人達の集団であるところにあるのではないのでしょうか。活動の基盤となる技術的態様の多様性に起因するものと感じます。

企業の場合では、業態の多様化に従って、分社化等の措置を採り、活動に関する意思の統一を図るでありましょう。

当技術協会が潜在的に持つ、これらの矛盾点もしくは課題を検証し、対策を検討する時期に至っていると考えます。

従来から提唱されてきた「複数技術の接点と重複技術の創造」(所謂、異業種交流)の概念を再考してみたいと考えます。

例えば、当技術協会を構成する多様な専門分野から技術接点を求め、そこに共通して存在する技術的課題を探求し、仮に机上作業であっても具体的な技術内容を創造し、外部に提案し、賛同する企業を支援する如き活動も考えられる。

そのためには、当協会に調査・研究活動ができる実働組織を構築する必要があるだろう。

本年度の活動指針として、上記のような思想を具体化する活動を起こしたいと考えます。

活動態様について、会員からのご提案を期待する次第です。

2010年度 定時総会

1 総会

日時：2010年4月17日（土）14：00～

会場：クーポール会館（静岡市）

進行：岡井正彦専務理事

開会挨拶（吉澤 淳会長）

議事（議長：吉澤）

（報告：岡井専務理事 鈴木会計理事）

第1号議案 2009年度事業報告

第2号議案 2009年度決算報告

第3号議案 名誉会員の推薦案

第4号議案 理事・役員交代案
（議長：久保嶋）

第5号議案 2010年度事業計画案

第6号議案 2010年度収支予算案

第7号議案 理事・役員任期の変更

審議のうえ原案のとおり承認される

閉会挨拶（久保嶋 勝巳会長）

2 特別講演

「日中友好技術支援活動の現況と

今後の展望」

講師：日本シニアボランティアズ協会
常務理事 市川 松樹 氏

「技術士50年 海外技術協力」

講師：会員 清水 康夫 氏

3 懇親会

以上

第1号議案 2009年度事業報告

1. 会員の状況

(1) 会員数の変化（130名→132名）

2010年3月末個人会員：117名

賛助会員：13社 計130名

(2) 入会者（8名）

個人会員退会者（5名）

賛助会員退会者（5名）

休会者（1名）

2. 活動状況

(1) 2009年度定時総会 4月25日開催
記念講演

「生物の超技術 21世紀の技術のあるべき姿」

講師 静岡理工科大学 志村史夫教授

(2) 例会 計4回開催

(3) 理事会等の会議

理事会（5回） 理事役員会（1回）

(4) 地区ブロック活動

東部、中部、西部 各1回開催

(5) 会報発行 4回（第126号～第129号）

(6) 受託等の事業

① 静岡県建設部農地保全質・農地整備室から電気関係技術士事務所の推薦依頼

② 浜松メッセにおける技術問題相談会（3件の相談がありました）

(7) 日本技術士会中部支部との連携・交流

静岡県技術士会中部支部関係役員が出席

(8) その他

① 理科支援特別講師派遣

② 会員名簿の発行（5年ごとの見直し、発行）

③ 技術士全国大会記念論文集への投稿

鳥居利成会員「住民目線の減災・危機管理活動とは～公務員技術士の立場から」

④ 中小企業診断協会との連携

第2号議案 2009年度決算報告

- (1) 一般会計
収入 (2,457,972 円)
支出 (2,457,972 円)
次年度繰越金 (387,692 円)
- (2) 基金特別会計
基金の部 (2,010,000 円)
利息の部 (6,192 円)
- (3) 50周年記念事業積立金
総額 (400,000 円)
- (4) 会員名簿作成積立金
総額 (400,000 円)
一般会計監査報告
齋会計監事、長嶋会計監事

第3号議案 名誉会員の推薦

当協会規約第6条に基づいて、豊島 金吾(上下水道)を名誉会員に推薦する。

第4号議案 理事・役員交代案

任期は、第7号議案に関連

- (1) 2010年度常任理事・監事
会長：久保嶋勝巳
副会長：吉田建彦、岡井正彦
専務理事：山下久吉
会計常任理事：大井寿彦
会報担当：川瀬泰裕、齋強志
監事：鈴木敏弘、長嶋滋孔
- (2) 2010年度各地区理事
東部：山本正男、北本達治、櫻賢三、
北岡山治、木村敏明
中部：五味道隆、仁科憲、中村央、
日名地輝彦、小林一雄、鳥居利成
宮野正克、長嶋滋孔
西部：景山精一、山之上誠、野々垣智樹、
池ヶ谷忠文

第5号議案 2010年度事業計画

1. 事業推進の方針

企業活動を支援する各種の機関・組織との連携を図り、当協会の活動を広報し、当協会の存在の認知を目指す。

2. 事業計画

- (1) 総会 日時:2010年4月17日(土)14:00
- (2) 例会の開催予定 4回
- (3) 地域ブロックにおける自主活動
- (4) 役員会の開催
- (5) 受託業務当の推進
- (6) ホームページ運営委員会の活動
会員のリスト登録の推進
- (7) 会報の発行
年4回(6,9,12,3月)、HPに掲載
- (8) 防災支援
静岡市と「東海地震等による被災後の復興まちづくり」協定を結び、協力を推進する。
- (9) 日本技術士会中部支部との連携・交流
2010年度静岡県技術士会中部支部関係役員・委員(計11名)
技術士全国大会(2010年9月24、25日三重県四日市市)に参加し、大会を盛り上げてください。
(10) (社)日本技術士会中部支部 静岡県技術士会 代表幹事 久保嶋 勝巳

第6号議案 2010年度予算

- (1) 一般会計
収入 (2,492,010 円)
支出 (2,492,010 円)
次年度繰越金 (326,010 円)
- (2) 基金特別会計
基金の部 (2,010,000 円)
利息の部 (6,192 円)
- (3) 50周年記念事業積立金総額 (500,000 円)
- (4) 会員名簿作成
作成予算 (300,000 円)
積立金 総額 (200,000 円)

第7号議案 理事・役員任期期間の変更

静岡県技術士協会の役員任期期間を、日本技術士会中部支部の任期期間に合わせてほしいとの要望に応え、2010年度の理事・役員任期期間を1年として調整を図りたい。

(以上詳細は、議案書を参照願います。)

記念講演 「日中友好技術支援活動の現況と今後の展望」

講師：日本シニアボランティアズ協会
常務理事 市川 松樹 氏



1. 協会の成り立ち

1977年「財団法人日本シルバーボランティアズ」が、元アジア開発銀行総裁、渡邊武氏により、「魚を与えて一日を養い、漁法を伝えて一生を養う」の理念のもとに設立された。

以来ODAを活用して、開発途上国への支援が実施されてきたが、国からの援助打ち切りに伴い自立（民間主導）へと方針転換し、2005年「NPO日本シルバーボランティアズ協会」が設立され現在に至る。

会員は、約120名で、その6割を農林水産職種が占める。

2. 中国への技術支援活動の歩み

中国への支援は、1983年の中曽根首相と胡耀邦主席の会談がきっかけとなり、1985年以来、「草の根型の技術支援」を続け、4000件の支援実績を数える。

中国は「良いものには金を出す」国で、高い技術レベルを求められるが負担は中国側である。（新しい時代の新しいボランティア）

この間「第9回読売国際協力賞」、「厚生労働大臣賞」を受賞し、2009年10月中国建国60周年式典にて「中国国家友誼賞」を受賞。

に対して、派遣実績は、100件であった。

100件の実績は表1に示すように、農業職種が67%を占めている。

農業職種の派遣要請は、時期的に春期（3～5月）の赴任が多い。

農業以外では、機械・化学も多いので興味をもっていただきたい。また、四川省では、地震災害の教訓から木造住宅への希望があるので、良い提案があればお願いしたい。

表1 2009年の派遣実績

職種	農林水産 (AG)	機械化学 (ME)	日語教育 (ED)	経営管理 (MA)	土木建築 (CO)	特殊技術 (MI)	合計
項目数	67件	9	9	7	4	4	100
割合	67%	9	9	7	4	4	100
派遣先(省)	黒龍省	遼寧省	河北省	北京市	山西省	山東省	
項目数	2件	1	7	8	0	23	
派遣先(省)	江蘇省	江西省	安徽省	浙江省	広東省	福建省	
項目数	28件	2	13	3	1	3	
派遣先(省)	四川省	陝西省	雲南省	河南省	湖北省	湖南省	合計
項目数	6	2	1	0	0	0	100

静岡県からは、毎年お茶の指導に携わる清水康夫さんを始め、醸造技術関係で河村伝兵衛さん、イチゴ栽培技術関係で斉藤明彦氏、上山優氏が活躍されている。

中国は、信頼でき安心して応援できるので、ぜひ皆さんの御参加をお願いしたい。

4. 技術者の中国への派遣とは

近年、中国では年率10%前後と目覚ましい経済発展を遂げています。しかし、これは東部沿岸地域や一部の職種、外資によるものであり、その裏には地域間、職種間の所得格差の拡大、三農問題（農村、農業、農民）環境汚染その他の深刻な問題が山積しています。

他方、近年の中日間経済交流の深化に伴い、日本語を習得したいという学生が増えていま

す。少しでも平和な社会にしたい、豊かな生活をしたいは人類共通の願いです。このような素朴な願いに大きく取り残された貧困者、零細企業等は中国内の未開発地区に多数存在しており、草の根レベルの技術援助を求めています。

そこで、日本の経済成長の一翼を担い、長年培ってきた貴方の素晴らしい技術や知識、経験をもう一度、中国の未開発地区の貧困者や零細企業の人々の幸せのために活かそうではありませんか？

当協会は2005年12月、東京都認可のNPO法人として発足しました。

これまでの長年の対中技術者派遣事業のノウハウを活かし、中国側窓口機関が整備した受け入れ体制を活用しながら、参加登録していただいた皆様方会員をより多く技術交流できる機会を提供することをお約束します。

5. 現地での活動は

中国から派遣要請してくる技術者の職種は農林水産、機械化学、建築土木、経営管理、日本語教育、その他特殊技術など広範囲に及びます。

日本語教育以外の職種については1ヶ月以内の短期（旅行日を含めて10日前後）派遣ですが、赴任の時期、期間については中国側と調整して決めることになります。現地での滞在期間中に現場視察や意見交換、機械操作、試験分析、その他実技の指導を行います。

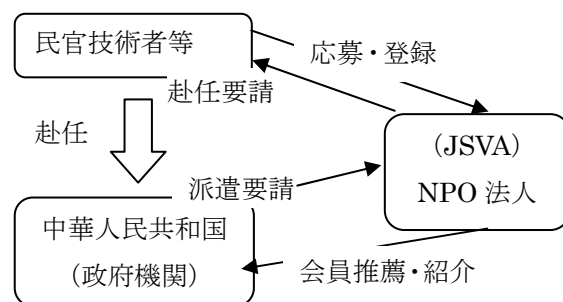
皆さんの中国での入・出国に際しては、赴任先の関係者が最寄の空港までの送迎をいたします。現地での技術指導の際は、日本語教育以外の職種については通訳が同行するので安心です。

しかし筆談してやっと通じる場合もあり、こうして皆さんの苦労と熱意を重ねることによって、日中間の友好関係を更に深めることになるでしょう。

6. 派遣の手順は

中国側からの派遣要請に応じて、会員の中から適任者を選考し、解決すべき技術課題等の情報を連絡します。

これらの技術課題への取り組みに応諾された方を派遣します。



7. 課題

①財政の問題

スポンサー募集と寄付金免税措置のお願い

②協力会員の増強

会員の仮登録制度（無料）があります。“自分に合うものがあれば声をかけて下さい。”

③支援地区の拡大（中国から東南アジアへ）

政府支援がないので、現在は中国に特化しているが、ベトナム、ラオス、カンボジア等政府との連携を促進したい。

④有償技術支援制度の確立

無償は抵抗がある。ぜひ高級技術による有償支援制度を確立したい。

8. 最後に

民間の友好を深めることで、目先だけでなくその国の発展の一翼を担っていただければ、幸いである。

広い気持ちで応援し、お互いに発展していければと思っている。

皆さんの参加をお待ちしています。

（参加登録等については次頁の詳細参照）

派遣希望者は今すぐ登録を！

応募資格

- ・ 心身ともに健康でボランティア精神が旺盛な方。
- ・ 生活面に経済不安のない方。
- ・ 提供できる技術や知識・経験のある方。

登録の申し込み

- ・ 常時、受付けております。
- ・ 所定の申込書に経歴書を添えて、お申し込みください。
申し込み時に入会金(1万円)年会費(5千円)の納入が必要です。
- ・ 申込書はJ S V A宛に電話等でご請求下さい。

(今後はJ S V AのHPから入手できます)

派遣内容

- ・ **派遣期間**：原則1ヶ月以内(但し、日本語教師は1年以上)実際の派遣時期、期間は双方が調整して決めます。

- ・ **旅費**：居住地最寄りの中国行き国際便出発地、空港以降の旅費・移動費は往復とも中国側が負担します。
- ・ **通訳**：原則、中国側が手配した通訳を同行します。
- ・ **日当**：報酬はありません。但し、小遣いとして100元/日前後の支給はあります。(日本語講師は2,500元/月以上です)
- ・ **宿舎・食事**：現地宿舎は中国側が手配します。宿泊費・食事とも中国側の負担です。
- ・ **その他**：緊急医療費は中国側負担もしくは本人立替、帰国後保険給付金で支払い清算します。

お問い合わせ先

日本シニアボランティア協会 (J S V A)
〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-6-7 宮澤ビル3F
TEL(03)5835-5601 FAX(03)5835-5602

<http://www16.ocn.ne.jp/~jsva/index.html>

記念講演 「技術士50年 海外技術協力」

講演者 清水技術士事務所 所長 清水 康夫 様 (会員 農学博士)



私は、今年で技術士になって50年になります。“技術会はメリットがない”とみなさんが言うので、このことを含めて、私の経験から提言をしたいと思います。

技術士及び農学博士に合格

昭和35年11月10日

技術士試験合格(農業部門農芸化学)

技術士登録(科学技術庁)1100号

昭和45年9月24日

京都大学農学博士(論博289号)

1. 資格

大学を卒業して、7年、第4回技術士試験に合格しました。受験資格の最短で、非常にうれしかったことを思い出します。

後年、学位が必要になり、論文博士を取得しました。

＜図1 技術士全国大会 大会誌表紙＞



図1は、静岡で開催された第20回技術士全国大会の大会誌の表紙で、懐かしく原画を大事に保管しています。

(会場で回覧されました。)

2. 技術経歴

大学では有機合成化学を専門としましたが広い分野の技術を修得しました。

(1) 専門技術

得意とする専門技術は表2のとおりです。

＜表2 専門技術＞

技術経歴 提供できる得意の専門技術)
① 食品の製造工程の改善(HA C、ISO、衛生管理)
② 茶類の生産加工と管理(緑茶、紅茶、麦茶、後発酵茶)
③ パン、菓子の製造と衛生管理
④ パン粉、冷凍食品の製造と衛生管理
⑤ はるさめの製造と衛生管理
⑥ こんにゃく(魔芋)の生産と管理
⑦ 米の搗精技術と無洗米加工技術
⑧ 製麺加工技術と衛生管理
⑨ 機能性食品の製造と管理(異物混入対策指導)

- ① 仲間から紹介されたのがきっかけで、勉強しました。
- ② 茶の科学については、日本、中国で評価されています。
- ③ 製パンの仕事仕事に参与し、静岡県パン組合の理事長をしていたこともあります。
- ④ パン粉冷凍食品の加工技術で、科学技術庁長官賞、黄綬褒章、勲5等瑞宝章を頂きました。
- ⑤ 凍結により動性に変化します。この技術は、おもしろい仕事です。
- ⑥ 群馬県はこんにゃくの産地で、指導研

究を行い、中国こんにゃくシンポジウムの日本代表にもなりました。

- ⑦ 中国黒龍江省から、米の加工技術で来て欲しいと要請されました。
- ⑧ 全日本製麺協会の技術委員をしていました。
- ⑨ 異物混入対策については、5年前までは、私たちが書いた本しか無かった。

提言 広い範囲の技術を持って！！

(2) 国内技術指導の経験

国内の実績は、表3のような指導をしてきました。この内①の全国パン粉工業協同組合については、委員会の委員長として冷凍食品加工に貢献しました。

＜表3 国内技術指導の経験＞

国内技術指導の経験
① 全国パン粉工業協同組合 技術委員会指導
② 全日本製麺協会 技術指導
③ 全国麦茶工業協同組合 技術委員会指導
④ 国内HACCP、静岡県ミニHACCP指導

(3) 海外技術指導の経験

海外については、その実績を一覧表にしてみました。(表 4～6)

＜表4 (1)海外技術指導＞

海外技術指導－1

1 緑茶の製造と科学について、講演と指導 :中国農学会 1981年 23日間
2 はと麦産地(タイ国北部) :異物混入除去対策 1984年 10日間
3 胡麻の産地調査と学術交流 :中国農学会、糧油研究所 1989年 14日間
4 浙江省技術交流指導 :杭州、紹興、紹興市糧食局 1990年
5 浙江省、四川省、山東省 :食品加工指導 1990年 21日間
6 西南農業大学講義、客座教授、四川省
7 湖北省 湖北民族学院、客座教授 :研究指導
8 山東省 :冷凍食品製造生産管理指導 1995年
9 中日魔芋国際会議(四川省、成都)日本代表 :1996年
10 山東省 平度市 :杜仲茶の栽培と加工 1997年
11 河南省 洛陽市 :清涼飲料の製造指導 1998年
12 浙江省 杭州市 :茶の指導 1998年
13 山東省 日照市 :茶の加工指導 1999年
14 山東省 新泰市 :檸檬酸の品質改良と生産加工の改善 1999年
15 江西省 豊城市 :米の加工指導 2000年

1 番について

最初に中国へ行ったのは、1981年で中国が解放されて初めてです。

チャンスがあればヤレ！

<表 5 (2) 海外技術指導>

海外技術指導—2	
16	山東省 日照市 : 茶の加工指導 2000年
17	四川省 宜賓市 : 茶の加工指導 2000年
18	山東省 日照市 五蓮県 : 茶の加工指導 2001年
19	江西省 撫洲市 : 茶の加工指導、米の加工指導 2003年
20	黒龍江省 前進 : 米の加工指導、無洗米加工指導 2003年
21	山東省 日照市 : 茶の加工指導 2004年
22	四川省 重慶市 : 西南大学 研究指導 2005年
23	湖北省 宜昌、山東省青島市 : 茶の研究指導 2006年
24	江蘇省 常州市金伝 : 玄米茶の開発指導 2006年
25	黒龍江省 慶安市 : 米の加工指導 2006年
26	江蘇省 : 茶の調査、茶の生産加工指導 2007年
27	安徽省 黄山 : 茶の加工指導 2007年
28	中国 科学技術交流中心(北京、杭州) : 研究打ち合わせ 2007年
29	江蘇省 常州市 金伝 : 麦茶、緑茶の開発指導 2007年
30	山東省 日照市 嵐山区 : 緑茶の生産指導 2007年

<表 6 (3) 海外技術指導>

海外技術指導—3	
31	山東省 臨沂市臨沭県: 無公害茶園の生産管理指導 2007年
32	山東省 泰安市泰山: 緑茶の栽培指導 2007年
33	浙江省 杭州市杭州 干島湖: 緑茶の指導 2007年
34	広西壮族自治区 桂林: 茶の調査、指導 2007年
35	台湾省台中: 茶の調査 指導 2008年
36	江蘇省 常州市金伝: 覆い下園の茶生産、粉末茶の生産指導 2008年
37	福建省 天福茶技術学院: 茶の研究指導 2008年
38	浙江省 湖州市長興: 第10回茶文化研究会 学術交流 2008年
39	浙江省 杭州市、紹興市、台州市: 農業調査、指導 2009年
40	湖北省 襄樊市: 杜仲茶の生産と利用の指導 2009年3月
41	江蘇省 南京市高淳県: 茶の生産と茶の実の利用指導 2009年4月
42	浙江省 諸暨市、杭州市、湖州市安吉県: 茶学術研究会 2009年4月
43	江西省 資溪県: 白茶の生産指導 2009年5月
44	韓国 慶北大学: 静岡大学と交流(茶と食品化学) 2009年9月
45	台湾省 台北県分山: 茶改良分山分場、方種茶の生産 2009年10月
46	杭州市淳安県: 静岡県県会議員団案内、茶、いちごの生産 2010年3月
47	江蘇省 南京市: 雨花茶生産指導 2010年3月

40番について

襄樊市は今、自動車の基地になっています。工業基地と農業基地が共存しており、杜仲茶の指導をしました。

46、47番について

今年の3月に、静岡県議員団6名の案内をしました。

(4) 取得した特許

取得した特許を表5に示します。

<表 5 (1) 特許一覧>

清水康夫特許一覧—1	
I 緑茶・麦茶関連特許	
1: 茶の加工法	特許第435585号 昭和39年12月21日
2: 麦茶の製造法	特許第794285号 昭和50年11月8日
3: 玄米茶の素の製造法	特許第1075119号 昭和56年11月30日
4: 濃厚麦茶の製造法	特許第1183521号 昭和58年12月27日
5: 穀茶の製造法	特許第1154394号 昭和58年6月30日
6: 麦茶用麦の製造法	特許第958789号 昭和54年6月14日

I 緑茶・麦茶関連特許について

お茶の製造法については、昭和39年から特許を取得しています。特に麦茶飲料の特許は新技術で、大企業で商品化されました。

<表 5 (2) 特許一覧>

清水康夫特許一覧—2	
II パン粉関連特許	
7: パン粉の製造方法	特許第686399号 昭和48年4月16日
8: フライ食品の製造法	特許第789909号 昭和50年9月29日
9: パン粉の製造法	特許第781234号 昭和50年8月18日
10: 保存用パン粉の製造法	特許第830476号 昭和51年9月22日
11: パン粉の製造法	特許第1115866号 昭和57年9月29日
12: 保存用パン粉の製造法	特許第1183520号 昭和58年12月27日
13: 細菌数の少ないパン粉の製造法	特許第1230204号 昭和59年9月19日
14: 優れた保存性を有するパン粉の製造法	特許第1275883号 昭和60年7月31日
15: 保存性の優れたパン粉の製造法	特許第1275882号 昭和60年7月31日

<表 5 (3) 特許一覧>

清水康夫特許一覧—3	
III エクストルーダー の利用関連特許	
16: 麩を原料とする食品並びに食品素材の製造法	特許第1512917号 平成1年8月24日
17: 脱脂大豆等を原料とする食品並びに食品素材の製造法	特許第1460070号 昭和63年9月24日
18: こんにやく粉の製造方法	特許第1763377号 平成5年2月17日

<表 5 (4) 特許一覧>

清水康夫特許一覧—4	
IV 米加工関連の特許	
19: 風味を改善した少量炊飯方法	特許第1015101号 昭和55年9月29日
20: 無洗米の製造方法	特許第2920248号 平成11年4月30日
21: 米の研磨材の製造方法	特許第2920247号 平成11年4月30日
22: 無洗米の製造方法	特許第2983010号 平成11年9月24日
23: ブレンド米無洗米の製造方法	特開平11-46703 平成9年8月5日
24: 無洗米の製造方法	特開平11-178522 平成9年12月24日
25: 乾式洗米による無洗米の製造方法	特開平11-290006 平成10年4月9日
26: 焙煎発芽玄米の製造方法	特願2002-175627 平成14年6月17日
27: 精白米の製造法	特願2002-175628 平成14年6月17日

<表 5 (5) 特許一覧>

清水康夫特許一覧—5	
V その他 特許	
28: うなぎ風味料およびその製造法	特願2005-299905 平成17年10月14日
29: 柑橘風味料の製造法及び食品	特願2008-296270 平成20年11月20日
30: こんにやく粉の製造法と食品	特願2009-046364 平成21年2月27日

II パン粉関連特許について

全国のパン粉組合を指導しました。加工食品原料としてパン粉は、重要な素材となりました。

III エキスルターの利用関連特許について

工業技術センター及び大学と共同研究しました。

IV 米加工関連の特許について

㊹の無洗米の製造技術は、中小企業の技術を大企業が利用した事例です。

V その他の特許

㊺は柑橘の中の苦味成分を簡単に除去するものを開発し、技術顧問している会社で現在開発中です。

㊻は、群馬県で現在実行中です。

3. 提言

提言

- 1・最年少で技術士試験に合格した喜び(昭和35年)
- 2・日本技術士会に入会し、自らを売り込む
- 3・自己の専門とする分野以外の方々と交流(異業種交流)を計り、知識を広めよう
- 4・人生100年の今、定年以後の人生設計を考える
- 5・技術士になることを薦めて成功された方の紹介
- 6・開業し、成功するにはパートナーの協力が必要

1、2番について

私は、年若く技術士試験に合格し、直ちに技術士会に入会しました。技術士会に入らないと、将来の経歴になりません。日本技術士会の会費は、2万円/年だと思えます。このくらいなら一杯飲んだと思って入会しなさい。いろんな人と会うことで、チャンスが生まれます。私の名刺は、経費節減のため、家内がパソコンで作りました。

名刺を作って、自らを売り込め！

3番について

若い人は、酒をのんで、先輩に頭を下げて、教わりなさい。

静岡県技術士協会に参加すれば、いろんな人と知り合いうい、わからないことがあれば、授業料を払って教わりなさい。

4番について

私は、90歳まで元気でやりたいと想っております。学校を卒業して定年まで約30年、その先30年、その時のためにいろんな人の御手伝いをし、知識を広め、人生設計を早くから考えなさい。

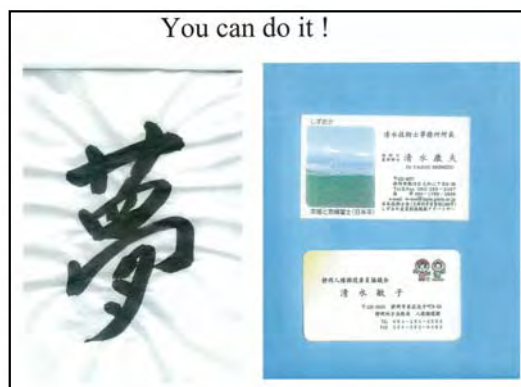
5番について

今回御出席の方で、私のすすめにしたがい開業して成功された多くの方がおります。

6番について

よきパートナーとは、女房と友達です。また、皆さん、夢を持ちなさい。

これは、私が家内の協力でパソコンで作った名刺です。技術士会がマスコットキャラクターを作って、それを名刺に貼って技術士会のPRをし、がんばりましょう。



新会員紹介



氏名 : 木村 英史 (きむら ひでふみ) 1970/11/21 生
入会日 : 2010年2月22日
技術部門 : 部門 経営工学 (技術士補) 選択科目 生産マネジメント
勤務先 : ヤマハ発動機 第1 sys 設備技術課
自宅 : 島田市



氏名 : 橋本 隆 (はしもと たかし) 1951/11/17 生
入会日 : 2010年4月5日
技術部門 : 部門 経営工学 (技術士) 選択科目 プロジェクトエンジニアリング
勤務先 : 駿河精機株式会社
自宅 : 埼玉県川越市
業績 : アルミ型材加工 FMS 工場の立上げなど

会計担当からのお知らせとお願い

平成22年度の年会費は、下記口座番号にお願い申し上げます。

取引銀行 : 静岡銀行 磐田支店
名義人 : 静岡県技術士協会
口座番号 : 0980271 (支店番号 321)
一般会員 : 8,000 円
名誉会員 : 4,000 円

事務局変更のお知らせ

役員交代に伴い、事務局が以下に代わります。尚、協会ホームページの変更はありません。

事務局連絡担当 山下久吉
〒419-0107
静岡県田方郡函南町平井 892-65
TEL 055-970-1255 / FAX 055-979-5029
E-Mail hiyama@lilac.ocn.ne.jp

編集後記

今年9月に第37回技術士全国大会が、三重県四日市市内で開催されます。

中部支部ではこれまでに、第1回(犬山市)、第11回(名古屋市)、第20回(静岡市)、第29回(岐阜市)の各大会を担当して、盛況に開催しております。第37回大会も中部支部からの力強い情報発信を行うべく、三重県技術士会を中心にして開催準備に取り組んでおります。

第37回大会のテーマは「中部から世界へ、技術ルネッサンス(歴史から考える科学技術の明日)」です。技術士全国大会は、誰でも参加できる大会ですので、静岡県からも技術士を始め多くの方に参集して頂き、歴史と伝統に学ぶ明日の科学技術について、この機会に考えてみては如何でしょうか。

皆様にお願ひがあります。

「技術へのさんぽみち」への投稿をお願いします。すでに会報115号から始めまして、26回の連載を継続しておりますが、引き続き進めていきたいと思うので宜しくお願いします。

(会報担当: 川瀬泰裕、齋強志)